

英語

日程	大問	出題分野・英文テーマ・形式	設問数	難易度
2月3日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「携帯電話の先駆者」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「自転車シェアリングNPOの取り組み」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（論説文）。 英文テーマ「幸福度をめぐる政策立案」	15	標準
2月7日	I	長文読解問題（論説文）。 英文テーマ「先延ばしを克服する方法」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「高齢者インフルエンサー」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「口笛による情報伝達」	15	標準
2月8日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「玄関で靴を脱ぐ習慣」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「映画 <i>The Taste of Things</i> 」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「くじらの鳴き声」	15	標準
2月9日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「マイクロプラスチックの人体への影響」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「オムツを建築資材に再生する取り組み」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（論説文）。 英文テーマ「人に親切にすること」	15	標準
3月5日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「週休3日制の効用」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「鳥の自己認識」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句7か所、解答2か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「骨髄移植提供者との面会」	15	標準

<出題傾向>

全日程とも試験時間は60分、すべてマーク式の客観問題である。大問数は6、小問数（マーク数）は52で、設問形式は各日程共通となっている。難易度については、「やや難」以上の出題は見られず、「標準」レベルに集中している。問題構成、難易度ともに、昨年度までの出題と変わりはない。

各問題を確認していくと、①「長文問題にあたる問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ」、②「知識系問題にあたる問題Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」に大別される。

①「長文問題にあたる問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ」では、出典の語数は450語程度であり、それぞれの語数に大幅な違いはない。問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵのいずれも、今年度はすべて説明文・論説文に基づく出題であった。昨年度まではエッセイが出題されたこともあるが、今年度はエッセイは姿を消した。また、出典はすべてインターネット上の記事であった。特定のインターネットサイトから出題されやすい傾向があり、今年度は *News for Kids* (<https://newsforkids.net>) から3題(2月3日問題Ⅰ、2月9日問題Ⅱ、3月5日問題Ⅱ)、*VOA News* (<https://learningenglish.voanews.com>) から3題(2月3日問題Ⅵ、2月8日問題Ⅵ、2月9日問題Ⅰ)、*NPR* (<https://npr.org>) から3題(2月7日問題Ⅵ、2月8日問題Ⅱ、3月5日問題Ⅰ)、*The Guardian* (<https://www.theguardian.com>) から2題(2月7日問題Ⅱ、2月8日問題Ⅰ)が出題されている。このように、同一のサイトからの記事が繰り返し採用される傾向を強く見てとることができる。

出題されるテーマについては、インターネット上の記事を出典としていることから、最新の時事的な内容となる傾向が顕著である。子供向けとされるサイトからの記事も少なくないが、現代社会をめぐる時事的な問題を扱った出典が多い。たとえば、情報通信技術やSNSに関わる問題(2月3日問題Ⅰ、2月7日問題Ⅱ)、資源・環境問題(2月9日問題Ⅰ、2月9日問題Ⅱ)がそれぞれにあたる。また、最新の科学研究に基づいた論考(2月8日問題Ⅵ、3月5日問題Ⅱ)などが出題される傾向も、インターネット記事が出典であるがゆえの特徴と言える。そのほか、生き方をめぐる教訓的な内容(2月3日問題Ⅵ、2月7日問題Ⅰ、2月9日問題Ⅵ、3月5日問題Ⅵ)やコミュニケーションに関わる問題(2月7日問題Ⅵ)など、若い受験生に向けて示唆的な出典が多いことも特徴として指摘できる。

設問については、問題Ⅰ・Ⅱはいずれも設問数が4であり、本文の内容をバランスよく問うている。本文の内容として正しいものを選ぶ問題と、本文の内容に照らして正しい英文を完成させる問題が中心だが、どちらも「内容一致問題」であることに変わりはない。そのほか、適切なタイトルを選ぶ問題が出題されることもあるが、いずれにしても本文の趣旨や論理展開への理解を問う出題となっている。まれに下線部の表現理解を問う設問があるが、これも知識を問うというよりは文脈の中での意味を問うているため、読解力を試す設問と考えてよいだろう。

問題Ⅵは、本文中の空所を補充する出題形式である。本文の論理展開への理解が前提となる出題と、基礎的な語彙知識の有無を測る出題に大別することができる。後者の「語彙知識」を問う問題については、空所の語句は特定の品詞に偏ることなく出題されている。

②「知識系問題にあたる問題Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」について見ると、文法・語法・熟語・構文・語彙の知識が満遍なく問われている。難易度の高い出題を避けつつ、特定分野に偏ることのない出題を心がけていることが見て取れる出題である。

問題Ⅲの文法・語法・熟語問題は、与えられた短文の空所に入れるのに適切な語句を選ぶ出題

形式であり、文法・語法が中心となっているが、熟語の出題も若干見られる。問われている事項のレベルは基礎的なものにとどまっている。

問題Ⅳの整序英作文問題は、与えられた和文と同じ意味になるように、7つの空所に適切な語句を入れて英文を完成させる出題形式であり、これは整序英作文では最も典型的なパターンである。和文と英文がかけ離れていて頭を悩ませるような問題はほとんど見受けられず、重要構文の知識をオーソドックスに問う出題となっている。

問題Ⅴの語彙問題は、与えられた定義に対応する語句を選択する出題形式である。名詞・動詞・形容詞・副詞の語義が満遍なく問われており、品詞の偏りは見られない。出題されている語彙レベルについては、英検2級相当の語句が中心で、問題Ⅵで問われる語彙のレベルと特段違いはないものと考えてよいだろう。

<学習対策>

1) 文法・語法

文法・語法の知識は、読解力の基盤でもあるため、英語の入試問題対策として不可欠である。問題Ⅲで問われる知識は、高等学校で学習する基礎的事項がほとんどであり、極端に難度の高い語句が問われることはまずないと言ってよい。したがって、基本的な学習用英文法書に掲載されている例文を十分に理解しておけば、満点を得ることも可能であろう。「〇〇総合英語」といった英文法書の例文を徹底的に理解し、加えて標準的な問題集を使った演習を繰り返すことで知識の定着を図れば、対策としては十分であろう。

問題Ⅲと問題Ⅳでは、ほぼすべての日程で必出と考えてよい文法単元が見られる。具体的には、述語動詞と準動詞に関わる問題である。特に述語動詞が空所となる設問が多く、この場合は時制、助動詞、仮定法についての理解が問われることが大半である。また、準動詞については、「動詞に続く目的語が不定詞か？動名詞か？」といった基本的知識に加え、分詞構文の用い方、また不定詞や動名詞を用いた慣用表現が問われることが多い。これらの単元は優先的に学習し、確実に得点できるようにしておきたい。また、複文構造を作る接続詞や関係詞も出題されることが多い。これは問題Ⅲと問題Ⅳに限らず、問題Ⅵでも問われることが多いので、十分に整理しておきたいところである。

2) 語彙・熟語・構文

前述のように、問題ⅤとⅥで問われる語彙のレベルには特段違いがないことに加えて、長文問題では難易度の高い語彙についてはしっかりと語注が施されていることから、いずれかの問題のためにむやみに難度の高い語彙を増やす必要はない。英検であれば2級、もしくは共通テストで求められる水準の語彙の定着を図ることで、語彙対策は十分と言えよう。語彙の量をむやみに増やすよりは、基礎的な語彙の定着度を上げる方がよい。単語の訳語だけを機械的に覚えようとするのではなく、例文を活用しながら単語の意味と用法を併せて覚える、特定の単語とともに用いられることの多い表現（コロケーション）をセットで確認する、音源を活用して耳慣らしをしつつ発声する、などといった工夫をすることで、定着度を上げることが可能となるはずである。

熟語については、句動詞や群前置詞、形容詞を含むものなど、多岐にわたって出題されている。基礎的な熟語が中心であるため、語彙と同様に、むやみに量を増やすよりは、文脈と

共に使い方を覚えていくという方法が望ましい。構文についても、整序英作文では繰り返し出題される典型的な事項が中心となっている。したがって、文法・語法・熟語・構文の基礎的事項を網羅した英語総合問題集を一冊使って、上記の事項を一通り確認しておくことが大切である。

3) 整序英作文

整序英作文では全般的な知識が複合的に問われることから、苦手とする受験生も少なくない。ただし、問題Ⅳで出題される整序英作文には和文が付されており、非常にシンプルな出題であることから、上述のような文法・語法・語彙・熟語・構文の知識をしっかりと整理しておけば、十分に完答が可能はずだ。解法と関わることであるが、文（sentence）を形作る要素として品詞についての理解が不足していないかどうかを確認しておきたい。選択肢として与えられた単語の品詞がわかれば、文の中でのそのはたらき（どの位置で互いにどんな結びつきをするか）は自ずと絞り込まれる。品詞の理解があることで正解に至る道筋が見えてくるので、まずは品詞のはたらきを整理してもらいたい。その上で、英文の骨格にあたる主語と述語動詞を確定させることで、素早く解答することができるはずだ。

4) 読解

読解問題に対処するには、全体の論理展開を正確に把握することが必要である。筆者の主張はどこか、主張を裏付ける根拠はどこか、具体例はどこか、一般論はどこか、といったことを考えながら、本文中での論理展開を意識して読み進めるよう平日頃から訓練しておくことで、設問で問われている該当箇所が見つけやすくなるだろう。また、時事的な出典では、最新の研究や事例を引用しながら筆者の主張が展開されることが多い。筆者の主張と、その主張を支持する根拠とを区別しながら文章を読み進めるようにすることで、読解が容易になる。

対策としては、まず適切な素材を選ぶことが重要である。前述のように、出典の語数は450語程度で、大問間の違いが少ないことから、同程度の長さの長文に慣れ親しんでおくことよいだろう。300語前後の長文を集めた問題集でまずは慣らすことから始めて、最終的には500語前後の長文を集めた問題集を仕上げるようにしたい。

出典テーマは、時事的なものが中心なので、上記の出典テーマを確認した上で、同じような傾向の文章を読む経験を積んでおこう。特に、SDGs という名称で括られる問題群については、近年ひととき出題率が高い。時事的な出題が多いということは、出題者が受験生に対して社会的関心の有無を問うているのだと解することもできる。環境問題はもちろんのこと、格差問題（ジェンダー、貧困問題）など、さまざまな問題の背景について見識を深めておくことが大切である。また、最新技術、とりわけ ICT（情報通信技術）によって生じる問題点なども扱われることが多いため、近年の技術的問題にどのようなものがあるかを知っておくことは、対策として有効である。やや古い問題集ではこういった最新内容は収録されていないので、できるだけ新しい論点に触れられる学習素材を選ぶようにしよう。こうした経験は、単なる受験対策にとどまらず、大学に入学してからの勉強にもきっと役立つはずだ。

以上